

踏み跡 <My Mountains>

九州(津江)	津留から酒呑童子山	No.186
--------	-----------	--------

福岡に来て二年目、色々な書籍や資料を入手して知識が拡大したことから「居る間に登ってみたい山」がかなり増えてきた。年頭に「今年歩いてみたい山」を掲げてみたら20座になった。自称「九州北部20名山」とし、日記にメモしておいて登ったら塗りつぶすことにした。九州に何年居られるかわからないが、できる限り多くの山を体験したいものだ。列挙した山の中には、山名に魅せられたものも少なくない。酒呑童子山もそのひとつである。



昭和55年4月26日

天候は良好、朝6時半に愛車で出発。国道386号經由甘木、杷木、日田を抜けて松原ダム・下釜ダムを経て程野という山村の集落に着いたのは10時05分。(ここまで112Km)

林道の傍らの「登山口」という標識の横に車を止めて登山スタイルに着替え。

歩きだしたものの路傍にワラビとゼンマイの群落、足が一向に進まない。

新つくし山岳会のガイドブックが示すとおり、ルートはわずかな踏み跡のみ。山の高さ、周囲の景観、足元の様子などから見ると、奥多摩の山を感じさせる。

沢筋から入り尾根に飛び出すと2m近い高さの熊笹で厳しい藪こぎを強いられるが、山の懐が浅いせいか藪こぎもさして苦にならない。

約一時間で986mの独標に到達、11時10分。ここは酒呑童子山の肩になる位置。



<986m峰から酒呑童子山を望む>

踏み跡 <My Mountains>

頂上直下のくびれ 11 時 30 分、昼食と休憩をとり 12 時 10 分出発。
酒呑童子山 (1180m) 14 時。山頂には勿論人っ子ひとりいない。
むしろ、独り言を言うのが照れくさくなるような静かさだ。静かな
頂上に五本も建っている標識がうるさく感じられる。見える山の数を
数えたらきりが無いぐらいによく見える。九州の山をだいぶ覚えてき
たので景色を見るのが楽しい。

特徴のある釈迦ヶ岳、御前山 (下の写真)、ちょっと遠くに万年山
(はねやま) の平らな頂上が印象的だ。(右下写真)

湧蓋山 (わいたさん)、九重方面もはっきりと見える。

名残尽きぬ景観の頂上を

14 時 35 分に出発し、

下山に入る。

下山ルートは、途中の
鞍部から沢沿いに強引に
下ってみたら、途中に
馬酔木の群れとまだ蕾の
シャクナゲ。おまけに
穂の芽の大群まで発見し

てしまい、足がはかどるはずがない状態。

16 時 30 分今朝の林道に帰着。車を走らせては見たものの、やはり路傍のワラビが気になり、ちょっと走っ
ては止めてワラビ採りを・・・と繰り返しながら移動を始めていたらひとりの老人が手を挙げた。

「津留まで乗せて欲しい」と言う。走りながら老人と世間話。

老人いわく、「土地の人はワラビ、ゼンマイなんかそんなに目をむいてとったりしないよ」と言う。

なぜなら、「採っている暇がないぐらいに沢山出てくるから、むきになって採ったりしない」とのこと。

「この川原川の支流に入ると、ヤマメ、イワナが五万と採れる」とかとか、土地の話を色々きかせてくれた
が、方言が強くて何を言っているのかわからない方が多かった。

津留で老人を下して、また今朝来たルートを戻り福岡に向かった。

晴れて暖かで歩くと汗が出るような一日、山菜をたっぷりと土産にした素晴らしい山歩きになった。

以上

